

や
まさき

ひとりで頑張るすぎない介護を!

男性介護者の会の取り組み

『六栗市男性介護者の会』では、男性で介護をされている方やその経験者などが集い、ひとりで頑張るすぎない介護をめざして活動しています。

活動日は、毎月第4金曜日、穴栗防災センターです。男性介護な

らではの苦労を分かち合い、介護の知識や技術を学びながら、気軽に情報交換ができる場となっています。

9月21日(金)には、やまさき白寿園(山崎町春安)を見学し施設や介護機器、サービスについて説明を受け、意見交換をしました。

参加者からは「実際に見て施設のイメージが変わった」「次は介護用品の展示場も見に行きたい」など、新しい発見や今後の活動につながる意見が出ました。

また、同会では、今年度からは男性介護者の孤立を防ぐため、介護が大変などの理由で外出が難しい会員宅を訪問したり、会員募集のためにリーフレットを作成し公共施設や介護事業所に配布するなど、新たな活動にも取り組んでいます。

お問合せ、入会お申込みは社協まで

(山崎支部 森井裕矢)



白寿園の見学には13名が参加。特殊浴槽などの説明を受け質問もたくさんしました

い
ちのみや

福祉について真剣に考えています

伊和高校1学年総合学習

伊和高校第一学年(62名)では、「総合的な学習の時間」に、『人が共に生きる』ということについて考えています。

9月13日(木)には、「自分のまちに住んでいる人」をテーマに、ワークシヨップの手法により、8グループに分かれ話し合いました。

ワークシヨップでは、グループリーダーを中心にお互い協力しながら作業を進め、出し合った意見を分類・整理していきます。

「お年寄り」「不自由な人」「近所の人」「子ども」「外国人」「労働者」など多数分類され、お年寄りや不自由な人は、特に多くの意見が出ていました。

共同作業をすることにより、生徒一人ひとり、自分自身の中に新しい「気づき」と「問題意識」が得られたようで、次回から始まる体験学習に向け貴重な時間となりました。



付箋紙(ポストイット)に書かれた一人ひとりの大切な意見を模造紙に貼り、内容の近いもの同士で分類・整理(9/13 伊和高校)

9月27日(木)からは、3グループに分かれての体験学習(高齢者疑似体験・点字・手話)。疑似体験では、ヘッドホンや特殊眼鏡、手足の重りなどを装着し、加齢による身体的な変化を体験。高齢者や体が不自由な人について考える機会になっています。

学習を通じて、生徒一人ひとりに、生きることの大切さや他人を思いやる心など、豊かな人間性が育まれることを期待しています。